厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

J-Skills News

Vol.1

2017年10月

日本の訓練／検定協力の取組等を少しでも多くの方にご理解いただくために、J-Skills Newsを発行します。

❒ 人材開発協力事業成果の日系企業への活用促進について［ベトナム、カンボジア、タイにおける官民連携強化を目指して］

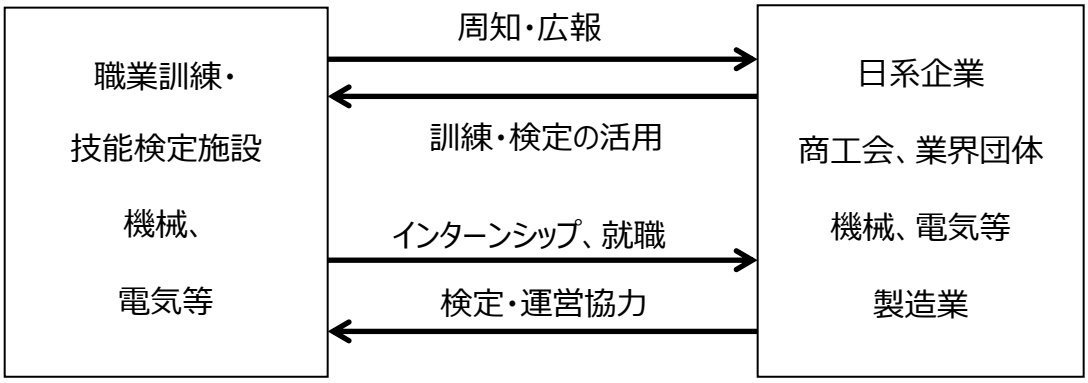
8月21日～28日、厚生労働省和田審議官は、ベトナム、カンボジア及びタイの政府／訓練・検定協力対象施設及び日系企業関係者を訪問し、官民連携強化への理解と協力を要請しました。

訪問を通じて、派遣中のJICA専門家の協力も得ながら、これら施設が提供する訓練・検定などの活動を日系企業が活用されるよう、周知広報の強化に取り組むこととなりました。

また、各国別に協力事業の目標に向けて、政府側がスケジュール感を持って取り組むよう要請し、コミットを得られました。

ベトナム：日本式技能検定の国家検定化への取り組み（18年7月まで）
カンボジア：訓練機能強化と検定体制整備、産業界連携（20年3月まで）
タイ：日本式シーケンス制御2級検定のＡＨＲＤＡでの実施（18年3月まで）

職業訓練・技能検定施設と日系企業との連携体制の確立に向けて



タイ労働省副次官との協議

カンボジア中核訓練施設（NPIC）での協議

「技能評価システム移転促進事業（SESPP）」では、日本式の技能検定のノウハウを移転することを目的として、日本国内及び対象国において各種研修等を実施しています。

□研修レポート

①タイにおけるシーケンス制御2級　技能評価者講習」

タイへは日本の自動車関連企業も多く進出していますが、タイでは自動車産業を担う人材の育成が課題となっています。このような状況の中、日本（JICA）の支援により、シーケンス制御の国家検定を来年3月をメドに立ち上げることが目標とされました。SESPPにおいても、JICA尾崎専門家とも連携しつつ、国家検定の評価者の育成を支援しています。

タイにおけるSESPPは、自動車関連技能の人材育成機関である自動車人材育成学院（AHRDA）を中核的機関として進めていますが、8月22日から25日、シーケンス制御2級の技能評価者講習を実施しました。当日は、日本から派遣された2名の専門家の指導のもと、10名の受講生が評価者役と受検者役を交互に実施する役割演習（ロールプレイング形式の演習）等が行われました。

研修風景

研修風景

受講者からの研修に対する満足度は大変高く、「次の仕事につながる」、「日本での技能検定の様子をビデオで観てみたい」といった感想がありました。また、講師からは、「参加者により、そもそものスキルや研修の理解度に多少差があったが、タイの自動車関係企業の自動化に欠かす事の出来ない『シーケンス制御2級』の技能検定は絶対成功をさせるべき」といった力強いメッセージが寄せられました。

修了者は、今後、実際の技能検定さながらに行われる技能評価トライアルに評価者として参加することが予定されており、評価者として独り立ちできる技能の習得を目指します。

②ベトナムにおける旋盤2級訓練技法研修

ベトナムは2020年までの工業国化を目標に掲げ、高度な人材の育成に取り組んでいます。我が国は、こうした人材開発分野における支援の一つとして、JICA事業により、職業訓練指導員の育成機能の強化や職業能力評価制度の開発に対して継続的に支援を行ってきました。SESPPでは、これらJICA事業とも連携しつつ、国家技能検定制度への日本式の技能検定の導入を支援しています。これまでに旋盤など幾つかの職種について日本式の技能検定が実施され、今後は、正式に国家検定として採用されることが予定されています。

研修風景

研修風景

こうした状況の中、今年度のベトナムにけるSESPPでは、多くの現地研修が予定されていますが、その第一弾として、8月21日～25日、ハノイ工業大学で旋盤2級の訓練技法研修が実施されました。職業訓練指導員等11名が参加し、日本から派遣された2名の専門家から標準作業書の作成方法の講義を受けた後、2名1組のグループで標準作業書の作成や作成した標準作業書に基づく切削作業を行いました。

講師となった専門家によれば、ベトナムの訓練現場では作業標準書がないのが一般的であり、今回の研修により標準作業書の重要性、有効性が認識され、これを活用した効果的な訓練が進められることが大いに期待できるとのことです。

今回の研修は短期間のものですが、特定のテーマを設定することにより、重要な支援となりうるとの感触を得ることができました。

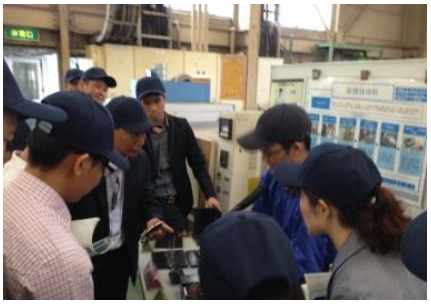
③技能評価技法・訓練方法国内合同研修

本年度のSESPPでは、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムを対象として、各国から官民1名ずつ計8名の研修生を招聘、8月28日～9月7日にかけて幕張国際研修センターにて技能評価技法及び訓練方法に関する合同研修が開催されました。

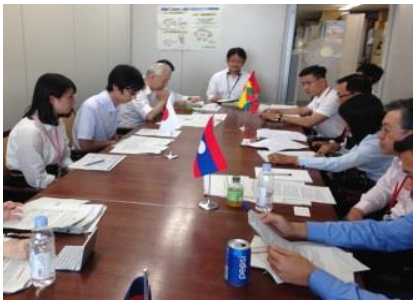
プログラムの前半は座学を中心とした内容で、研修生より各国の職業訓練等の課題をまとめたカントリーペーパーの発表があった後、訓練における官民連携の在り方、訓練コースの作成方法、日本の職業訓練制度に関する講義が行われました。また、厚生労働省を訪問したほか、千葉職業能力開発短期大学校、千葉職業能力開発促進センター、日本電設中央学園、東芝府中事業所を訪問し、日本の公共職業訓練や社員教育の現場を視察、研修生からは「５Ｓ（整理、整頓、清掃、清潔、躾）が徹底されていて素晴らしい」という感想が多く聞かれました。プログラムの後半は、ベトナムとカンボジアはシーケンス制御を、ミャンマーとラオスは配電盤・制御盤組立てをそれぞれ題材とし、実習を交えての講義が行われました。最後に研修の成果として、研修生は、研修冒頭に発表した課題に対応した訓練コースの概要や実施計画をアクションプランとして作成、その発表を行いました。

参加者の英語力に差があり、当初はメンバー間のコミュニケーションがやや困難な面もありましたが、最終的には和気藹々と良いチームワークで熱心に研修に取り組んでいました。講師陣からは、今回作成したアクションプランの内容が帰国後各国の職業訓練に活かされるよう研修生の活躍を期待するコメントが相次ぎました。

カントリーペーパーの発表



視察風景



研修風景

❐研修生レポート
「開発途上国における在職職業訓練指導員の能力向上事業」

■事業概要と目的

本事業は、開発途上国から在職職業訓練指導員を我か国に1年程度受け入れ、母国で中核的役割を果たすことのできる高度で専門的な能力を身につけさせることを目的に実施されています。

■研修生レポート

第3期生（2016年1月～2017年3月研修）のレポート

○パチヤヌクル　ターニン（TANIN PACHIYANUKUL）さん＜タイ＞

Department of Skill Development（技能開発局）のOffice of Skill Standard and Testing Development（技能検定促進部）で、技能五輪競技大会に関する事業を運営しています。職業大で学んだキャリア・コンサルティング力と職業能力開発指導力を特に活用しており、技能大会の出場選手にアドバイスするときに役立っています。また、大会を運営する際、若者や障がい者など関係者の技能開発とどのように結び付けていくのかという実行計画の作成にも生かされています。

○サイド　シャフィック　ビン　トゥアン　マンソール(SYED SHAFIQ BIN TUAN MANSOR)さん＜マレーシア＞

ADTEC Kemaman, Manpower Departmentの機械メンテナンステクノロジー学部で、Vocational Training Officer(指導員)として、インベントリと機械の運営、シラバス開発を行っています。本事業で学んだことを生かして、OJTへ行く前の訓練生に対して就職面談を行っています。今後は、本部で開発されるキャリア・コンサルティングのシステムとシラバスを提案する予定です。

○ズルヒルミ　ビン　マクザニ（ZULHILMI BIN MAKHZANI）さん＜マレーシア＞

Manpower Department のKangar Industrial Training Institute(ITI) Chief of Mechatronic Divisionとして、学生のOJTを管理しています。職業大で学んだこと、例えば、マネジメント力とキャリア・コンサルティング力が非常に役に立っています。専門科目で学んだ技能・技術力もよく活用しています。新しい訓練コースを設計するときには、学んだ訓練コーディネート力を応用しています。

❐2023年の技能五輪国際大会の招致に立候補します
（国内での開催候補地は愛知県に決定）

技能五輪国際大会は、青年技能労働者を対象として隔年で開催される世界レベルの技能競技大会です。日本は1962年から参加、これまで1970年の千葉、1985年の大阪、2007年の静岡と計3回国内開催されていますが、4回目の国内開催に向け、愛知を候補地して立候補することが決定されました。
厚生労働省では、今後招致実現に向け、運営団体であるワールドスキルインターナショナルや加盟国に対し招致の意思を発信していくとしており、直近では10月にアラブ首長国連邦のアブダビで開催される国際大会の機会を活用するとしています。

●今後のスケジュール（例年のスケジュールに基づく想定）
・2018年秋頃：WSI総会（オランダ・アムステルダム）において、国際大会を主催する意思を正式表明。
・2019年初頭：立候補に向けたプロポーザルシートをWSI事務局に提出。
・2019年夏頃：WSI総会（ロシア・カザン）において2023年の国際大会の開催地が決定
（複数国の立候補がある場合は、WSI理事会が申請内容を検討し、開催のための基本要件を満たしている場合には、WSI総会において、加盟国の投票により決定される。

●詳細はこちら（厚生労働省ホームページ）をご覧ください。
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000178173.html

（以上）

発行：ＳＥＳＰＰ事務局